

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上位目標：聴覚障害を持つ子どもの健全な発育や生活環境の向上、社会での自立促進</li> <li>・ 達成度：聴覚検査や診断の大規模な実施により、早期に子どもの聴覚障害を発見することができ、子どものコミュニケーション能力の促進、家族への支援、また地域への啓発活動を通して、家族や周囲の理解のもと、子どもが潜在能力を発揮できる官僚の創造と教育機会の提供に貢献した。</li> </ul>
(2) 事業内容	<p>(ア) 子どもの聴覚検査と聴覚診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガザ地区の全 5 地域にある診療所および幼稚園で 61 回、合計 5,048 人の乳幼児に聴覚検査を実施した。</li> <li>・ 聴覚検査の結果「要検査」と判断された乳幼児 150 人が、現地提携団体の専門設備で聴覚診断の精密検査を受けた。うち 80 人に聴覚障害があるとわかり、早期支援の対象となった。</li> <li>・ 78 人の子どもに両耳 2 個ずつ、合計 78 個の補聴器を供与した。</li> </ul> <p>(イ) 聴覚障害の子どもをもつ家庭へのアウトリーチ型早期介入プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聴覚検査・診断を経て、早期支援が必要とされた乳幼児 80 人のうち、24 世帯に対して、早期支援専門家によるアウトリーチの在宅プログラムを 360 回実施した。</li> <li>・ 10 人の乳幼児に、244 回の言語療法を実施した。</li> </ul> <p>(ウ) 聴覚障害の子どもと親のための集団遊戯療法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 64 の乳幼児世帯に対して、集団遊戯療法を延べ 438 回実施した。同療法のうち、母親向け活動には 14 世帯、親子活動には 21 世帯、両方の活動には 29 世帯が参加した。</li> </ul> <p>(エ) コミュニティにおける啓発ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガザ各地で 10 回の啓発ワークショップを実施した。</li> <li>・ 啓発用の情報資料を作成し配布した。</li> </ul> <p>(オ) 聴覚障害の子どもと親や家族のための手話トレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合計 49 回・144 時間の手話トレーニングを実施。参加した 58 人のうち 56 人が所定の 36 時間コースを修了した。</li> <li>・ 手話テキストを開発した。</li> </ul> <p>(カ) 聴覚障害の子どもや家族への在宅ソーシャルワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 77 世帯に対し、ソーシャルワーカーが 154 回の家庭訪問を実施。うち 8 世帯が 1 回、61 世帯が 2 回、8 世帯が 3 回の訪問を受けた。</li> </ul> <p>(キ) 早期介入に関するパネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2016 年 3 月 28 日に、ガザ市の現地提携団体施設にて開催した。</li> </ul> <p>(ク) 母親向け早期支援研修【追加された活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合計 24 回・72 時間の研修を実施。参加した 40 人の母親のうち、32 人が 36 時間コースを修了した。</li> </ul> <p>(ケ) ガイドラインの作成【追加された活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族向けの早期支援ガイドラインを作成し発行した。</li> </ul>

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>【成果 1】多くの 0-5 歳の子どもたちが聴覚検査を受けることができ、聴覚障害が早期に判別される：活動（ア）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聴覚検査を受けた 0-5 歳の子ども数（目標：5,000 人） 実績：5,048 人（101%達成）</li> <li>・ 補聴器の提供数（目標：144 個） 実績：78 人に 2 個ずつ計 156 個（108%達成）</li> </ul> <p>【成果 2】聴覚障害を持つ 0-5 歳の子どもが適切な支援を受けて適切な発達が保障される。また障害の状況に合わせた対応策が検討される：活動（イ）（ウ）（カ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期介入を受けた 0-5 歳の子ども数（60 人） 実績：80 人（133%達成）</li> <li>・ 聴覚障害の子ども適切な発達（専門家の評価レポート、親の視点や援助職員などの視点からの評価アンケート） 実績：       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 補聴器を常時装着開始後 4~6 ヶ月後をめどに実施した再検査で、20 人の子どものうち補聴器装着時の聴覚レベルが通常と判定された子どもが 6 人、軽度と判定された子どもが 14 人となり、補聴器供与・管理指導の効果が確認された。</li> <li>(2) 在宅プログラム及び集団遊戯療法を担当した早期支援専門家の評価報告によれば、早期支援の指標を使った事前・事後評価を実施した 60 人の乳幼児のうち、コミュニケーション能力に大きな改善があった子どもが 47 人で、全体平均で伝達力 28%、認識力 31%の改善があった。また、障害児の早期支援チェックリストを用いた評価結果では、全体平均で身体能力 16.3%、自助度 14.9%、心理状態 24.7%、認知能力 32.7%、コミュニケーション能力 36.6%の改善があった。</li> <li>(3) 集団遊戯療法に参加した母親への質問票を用いた個別評価インタビューの結果、子どものコミュニケーション能力の改善度合いについて、早期支援の事前・事後の 10 段階評価で、平均 3.9 の改善が確認された。また、活動への参加が子どもについての問題解決に役立ったと回答した割合が 87.5%であった。</li> </ol> </li> <li>・ 聴覚障害を持つ子どもが、将来的にアトファルナろう学校や地域の関係施設、また普通学校での教育の機会を持つ（60 人） 実績：現地提携団体アトファルナの幼稚園に入園した子どもが 1 名、また聴覚障がいを理由に入園を懸念されていた子どもを含め、啓発の結果、普通幼稚園での受け入れが可能となり通園し始めた子どもが 10 名いる。事業の対象が 0~5 才の乳幼児のため、事業終了以降に幼稚園やろう学校への入学が見込まれる子どもが多く、引き続きアトファルナがフォローアップする。</li> </ul> <p>【成果 3】家族や地域社会の理解が深まり、聴覚障害の子どもへの社会環境が向上する：活動（エ）（オ）（カ）（キ）（ク）（ケ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手話講座の参加者数（目標：70 人） 実績：58 人が受講し、56 名が 36 時間コースを修了（80%達成）</li> </ul>
--------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティ啓発の参加者数（目標：200人） 実績：396人（198%達成）</li> <li>・ 聴覚障害を持つ子どもの親や家族のコミュニケーション能力調査（聴覚障害幼児教育専門家の評価レポート） 実績：早期支援専門家及びソーシャルワーカーの評価報告によれば、80人の乳幼児の家族のうち、活動参加により子どもとのコミュニケーション能力が改善した家族が64世帯、うち45世帯は著しい改善が確認された。</li> <li>・ ろうや聴覚障害に関する知識の伝播や意識調査（フォーカスグループ、アンケートによる調査） 実績：質問票を用いた評価インタビューの結果、集団遊戯療法、手話トレーニング、母親向け研修の参加者全員が、活動を通して知識や技術を獲得し、家族や親戚・隣人などに共有したことが確認された。また、啓発ワークショップのアンケート結果では、90%の参加者が聴覚障害についての知識を得たと回答している。</li> <li>・ 聴覚障害の子どもを持つ家族のストレス、モチベーション調査（フォーカスグループ、アンケートによる調査） 実績：母親向け研修の参加者22人への聞き取り調査によれば、ストレスの原因は地域コミュニティによる聴覚障害や子どもについての理解の欠如、拡大家族による不理解と子どもを産んだ母親に対する非難、家庭の経済状況であった。集団遊戯療法や手話トレーニングの参加者からも、同様の事例が確認された。一方で、早期支援の活動で知識を得ること、同じ聴覚障害の子どもを持つ家族どうしの経験共有が行われ繋がりができたこと、アトファルナという専門機関に相談できるようになったことは、子育てのうえで大きなモチベーションとなったこともわかった。</li> <li>・ パネルディスカッションの開催 実績：事業終盤にガザ市の地元提携団体施設にて開催し、事業内容と成果の共有及びパネリストによる意見や専門的見解が述べられ、受益者や地元団体・国際機関の関係者が参加した。</li> </ul>
(4) 持続発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聴覚障害の乳幼児80世帯が、早期支援活動を通して得た知識・技術を継続して活用し、子どもがコミュニケーション能力を発展させ、その後の学校教育へとつながることが期待される。これにより、学力の獲得のみならず、社会での自立が実現する。</li> <li>・ 現地提携団体アトファルナが、事業を通して開発・作成した資料やガイドラインを活かし、早期発見・支援活動を継続していく。母親向け研修を受講した参加者が、同じ聴覚障害の子どもを持つ家族への相談・助けとなるよう、ボランティアとして携わる。</li> <li>・ 啓発ワークショップの開催や、地方に住む聴覚障害児の照会で協力した、ガザ各地の障害分野で活動する地元団体との連携を維持し、相乗効果を高める。ガザ各地に住む聴覚障害の子どもや家族が、支援にアクセスできるようになる。</li> <li>・ 今後も当会はガザ地区における聴覚障害分野の支援や活動継続を見込んでいることから、現地提携団体の活動についてもモニタリングしていく。</li> </ul>